

形容詞の通時的語義・用法データベースの構想と進捗状況

山崎 誠 (国立国語研究所 研究系)

村田 菜穂子 (大阪国際大学 基幹教育機構)

前川 武 (大阪国際大学短期大学部 ライフデザイン学科)

村山 実和子 (日本女子大学 文学部)

概要：本研究では、『日本語歴史コーパス』(CHJ)を利用した形容詞の通時的語義・用法データベースの構想について明らかにし、昨年度から実施している同データベース構築の現在の進捗状況について報告する。今回の調査までで、「深い」「憂い」「恥ずかしい」「高い」「安い」「難しい」「痛い」「悲しい」「良い」「悪い」の10語について、平安時代と鎌倉時代の用例を『日本国語大辞典』の語義分類に基づいて語義を分類し直すとともに、前回分類した用法を細分化し、分類基準も明確にし、「深い」「憂い」「恥ずかしい」「高い」「安い」について用法を分類し直し、時代によって用いられる語義や用法に変化があることなどを示した。

キーワード：形容詞、語義、用法、日本語歴史コーパス、データベース、言語変化

Plan and progress of a diachronic database of adjective senses and usages

Makoto Yamazaki (Research Department, National Institute for Japanese Language and Linguistics)

Nahoko Murata (Institute of Liberal Arts and Proactive Learning, Osaka International University)

Takeshi Maekawa (Department of Life Design, Osaka International College)

Miwako Murayama (Faculty of Humanities, Japan Women's University)

Abstract: In this study, we report on the concept of a diachronic senses and usage database for adjectives using the Corpus of Historical Japanese (CHJ), and report on the current progress of the database construction that has been in progress since last year. Until now, we reclassified the meanings of 10 words “fukai”(deep), “ui”(sorrow), “hazukashii” (embarrassing), “takai” (high, expensive), and “yasui”(cheap), “katai”(difficult), “itai(painful)”, “kanashii(sad)”, “yoi(good)”, and “warui(bad)” based on the word sense classification of the “Nihon Kokugo Daijiten” in the Heian and the Kamakura periods. Also we subdivided the previously classified usage and clarified classification criteria. And we reclassified the usages of five words, “fukai”(deep), “ui”(sorrow), “hazukashii” (embarrassing), “takai” (high, expensive), and “yasui” (cheap), and it is shown that there are changes in the meaning and usage of terms depending on the era.

Keywords: Adjective, Meaning, Usage, Corpus of Historical Japanese, Database, Language Change

1. はじめに

筆者らはこれまで主に語彙索引を利用して、中古・中世を中心に語彙史の観点から形容詞・形容動詞の量的な研究を行ってきた([1][2]). 索引というデータの制約上、語義や用法など文脈に基づく分析は多大な時間がかかるため実現できていなかった。しかし、『日本語歴史コーパス』(Corpus of Historical Japanese, 以下 CHJ と略す) [3]の利用により、語義や用法による分析も比較的容易に行えるようになってきた。そこで、筆者らは、最終的には CHJ を基にした、形容詞の通時的語義・用法データベースシステムを構築・公開することによって日本語学研究、特に、語彙研究および語彙史研究の分野に有益な資料を提供することを計画した。

昨年度は、通時的語義・用法データベースを作成するにあたっての問題点を検証するために、試

行的に平安時代の形容詞 5 語各 100 例を用いて語義分類・用法分類を行った[4].

本発表では、まず、通時的語義・用法データベースの構想について明らかにし、次に、引き続き対象とする形容詞の数を増やすとともに、他の時代のデータを追加して行った語義分類・用法分類の進捗状況について報告する。

2. データベースの構想

「はじめに」で述べたように、CHJ の発展によりコンピュータを専門としない者でも必要な語の用例を簡単に参照できるようになった。また、CHJ ではすべての語にその位置を示すユニークな情報(「サンプルID」と「開始位置」)が付与されている。

筆者らの考える形容詞の語義・用法データベースは、最終的にこの CHJ の位置情報を使ったアノテーションデータとして広く公開すること

を想定している。このアノテーションデータのイメージは表1のようなものになる。

表1 アノテーションデータのイメージ

サンプルID	位置情報	見出し語	意味1	意味2	用法
20W拾遺1005_09009	28920	高い	(一) (2)盛り上がる・積もる	(四) (3)数値・程度	連体用法
30-建礼1232_00015	4590	憂い	(一) (2)つらい		終止法(係り結び)
20-源氏1010_00050	188780	安い	(1)安心・平穩		語幹-形容動詞生成

表1では、1行目のデータの場合、サンプルIDが「20W拾遺1005_09009」、位置情報28920から『拾遺和歌集』歌番号568の歌で使用されている形容詞「高い」であることが特定され、元々のCHJのデータに、その意味として「〔一〕(2)盛り上がる・積もる」「〔四〕(3)数値・程度」の2つが、用法として「連体用法」が追加される。表1で意味1、意味2と意味が2つあるのは、掛詞など複数の意味の解釈があり得ることを示している。

これらの情報を広く公開することで、コーパスから得られる形態論情報等と意味や用法を組み合わせてさまざまな計量分析が可能となる。

将来的には、小木曾[5]の提唱する「中納言」へのアノテーション機能が実現すると、さらに利便性が向上すると考えられる。

3. 前回の分類結果の概要

まず、コーパス検索ツール「中納言」[6]を利用してCHJから品詞が形容詞のものを抜き出し(短単位および長単位)、その中から「奈良」「平安」「鎌倉」「室町」「江戸」「明治」「大正」のいずれの時代にも1例以上出現し、かつ、その形容詞が構成する複合語の数が異なりで5以上あるもの16語(「難しい」「無い」「易い」「良い」「深い」「高い」「苦しい」「近い」「遠い」「悪い」「憂い」「痛い」「悲しい」「安い」「長い」「恥ずかしい」)を抽出した。

次に、このうち「憂い」「高い」「深い」「恥ずかしい」「安い」の5語の平安時代の用例について、『デジタル大辞泉』[7]の分類に従い語義分類を、コーパスの検索結果の「活用形」により用法分類を行った。

その結果、語義の分布の特徴としては、「深い」「憂い」「安い」は特定の語義に集中していることがわかり、検索結果の「本文種別」の情報と合わせて見ることで、「深い」「安い」は会話にもかなりの量が出現すること、「憂い」は歌に多く、逆に「恥ずかしい」「安い」は歌に少ないことなど、文体による形容詞の用いられ方の差異も把握することができた。

また、活用形による集計結果からは、「深い」「高い」で終止形が少ないこと、「憂い」はほとんどが連体形であること、「恥ずかしい」は特定

の活用形への集中がないこと、「安い」ではほとんどが「未然形」であることなどが分かった。

さらに、用法の分類では、「深い」と「高い」が連用法と連体法とを合わせたものが約8割であり、それぞれの割合も似た分布を示していること、「憂い」は約6割が連体法であり、連用法が少ないこと、「恥ずかしい」と「安い」は連体法が少なく、その他が多いことなどが分かった。

4. 今回のデータの範囲

まず、新しい語として、3で述べた16語の形容詞の中から「難しい」「痛い」「悲しい」「良い」「悪い」の5語を選出した。前回の5語と合わせて10語となった。次に、用例であるが、今回の5語については、「中納言」を用いてCHJから抽出した平安時代と鎌倉時代の用例を対象とし、さらに、前回の5語については、平安時代の用例に加えて新たに鎌倉時代の用例を追加した。1語あたりの用例数は100とし、用例が100未満の場合は全数とした。

5. 語義分類の手順

前回は試行ということもあり『デジタル大辞泉』の分類に従って語義分類を行ったが、その後評価した結果、古典語の語義のカバー範囲に不安があることから、古典語の語義のカバー範囲が広い『日本国語大辞典』(ジャパンナレッジ、2022年7月~8月アクセス)の分類に従うこととした。『日本国語大辞典』にないものは、作業者が語義を付与した。また、前回同様、小学館『日本古典文学全集』(ジャパンナレッジ)記載の現代語訳を参考にした。

この語義分類については、すべて手作業にて行った。目的とする通時的なデータベースを作成するには膨大な数の用例を処理しなければならず、当然、自然言語処理による自動処理が望ましい。しかしながら、現時点でのプロジェクトメンバー内に専門家がいなかったことや、自動化のための学習用データがまだ不足していることから、まずは試行的に対象を限定して手作業にて行うこととし、自動処理については今後の課題とした。

6. 用法分類の手順

前回は「連体法」「連用法」「終止法」「準体法」「その他」の5つに大きく分類したが、今回は、より詳細な分類基準を立てた。その策定にあたっては、当該形容詞の前後の語の品詞・活用形の情報を参照することで、基準を明確にすることを試みた。なお、前後の語の形態論情報については、「中納言」の「インラインタグを使用」という機能を利用し、当該形容詞の前後に現れる語の品詞(中分類)・活用形(小分類)の情報を同時に抽出している。

今回の活用形ごとの分類基準を表2に示す。

ただし、助詞ないし助動詞に接続するものについてはその中の用法分類も検討する必要があるが、今後の課題としている。

なお、この分類基準の作成にあたっては、小田[8]、土岐[9]を参考にした。

表2 活用形ごとの分類基準

	用法	分類基準 (機能・後続語)
A. 連体形	a.連体用法	連体修飾語を形成する
	b.連体形終止法	そこで文を終止する
	c.終止法(係り結び)	係り助詞「ぞ」「なむ」「や」「か」と呼応して文を終止する
	d.準体用法	連体形をそのまま名詞句として用いる
	e.助動詞に接続	なり・たり(断定), ごとし(比況)
	f.助詞に接続	が(逆接確定条件<~けれど・~のに>, 単純な接続<~と・~ところ>)に・を(順接確定条件<~から・~ので>, 逆接確定条件<~けれど・~のに>, 単純な接続<~と・~ところ>)ものの・ものを・ものから・ものゆゑ(逆接確定条件<~けれど・~のに>)
B. 終止形	a.終止形終止法	そこで文を終止する
	b.終止形名詞法	終止形自体がそのような状態のものの意を表す名詞として用いられる
	c.連体法	終止形が直接名詞に続く
	d.助動詞に接続	らむ・べし・らし・めり(推量), なり(伝聞), まじ(打消推量)
	e.助詞に接続	とも(逆接仮定条件<たとえ~でも>)
C. 連用形	a.連用修飾(副詞法)	後続の用言を修飾する
	b.中止法	そこで文を終止せずに、いったん止めて、以下に文を続ける
	c.連用形名詞法	連用形自体が名詞として用いられる
	d.助動詞に接続	き・けり(過去), つ・ぬ・たり(完了), けむ(推量), たし(希望)
	e.助詞に接続	て・して(単純な接続<~て>)つつ(動作の並行<~ながら>, 反復・継続<~しては・~し続けて>)ながら(動作の並行<~ながら>, 逆接確定条件<~けれど・~のに>)
D. 未然形	a.助動詞に接続	る・らる(受身・自発・可能・尊敬), す・さす・しむ(使役・尊敬), む・むず・まし(推量), ず(打消), じ(打消推量), まほし(希望)
	b.助詞に接続	は(ば)(順接仮定条件<もし~ならば>, (順接確定条件(原因・理由<~から・~ので>, 偶然条件<~と・~ところ>, 恒常条件<~いつも>))
E. 已然形	a.終止法(係り結び)	係り助詞「こそ」と呼応して文を終止する
	b.助詞に接続	は(ば)(順接仮定条件<もし~ならば>, (順接確定条件(原因・理由<~から・~ので>, 偶然条件<~と・~ところ>, 恒常条件<~いつも>))
F. 語幹	a.名詞修飾	直接名詞を修飾する
	b.動詞修飾	直接動詞を修飾する
	c.感動	「あな+語幹」, 「あな+語幹+や」, 単独で感動の意を表す
	d.名詞	語幹自体が名詞として用いられる
	e.名詞を作る	接尾辞「さ」を伴って、その状態・程度を表す名詞を作る 接尾辞「み」を伴って、「その状態の所」の意を表す名詞を作る
	f.連体法	語幹がそのまま連体法に用いられる
	g.形容動詞を作る	接尾辞「~げ」を伴って、「様子や気配」という意味を付加した形容動詞を作る
	h.助詞に接続	に(逆接確定条件<~けれど・~のに>)

7. 結果1・語義分類の時代間比較

今回は、平安時代と鎌倉時代の用例を対象としたことから、時代間の変化を中心に述べる。まず、語義分類の比較結果を表3~12に示す。語義の観点からは、(1)「深い」「憂い」「高い」「難い」は時代間の差がほとんどない、(2)「恥

ずかしい」は平安時代には「気詰まり」や「気おくれ」が多用されるのに対して、鎌倉時代になると大幅に減少し「決まりが悪い」が主流となる、(3)「痛い」は平安時代では「精神的苦痛」が多いのに対して、鎌倉時代は「肉体的苦痛」がほとんどである、(4)「悲しい」は平安時代、鎌倉時代とも「嘆かわしい」が主だが、鎌倉時

代では「興味深い」の意が新たに生じている、(5)「良い」は平安時代では「正当・善」「適当・相応」が主なのに対して、鎌倉時代には「優れる」が圧倒的に多くなる、などがわかる。

本文種別の観点からは、(1)「憂い」が平安時代に地の文や会話にも使われていたのに対し、鎌倉時代には歌にしか使用されていない、(2)「恥ずかしい」は平安時代に歌にはほとんど使われていないのに対し、鎌倉時代には3割程度歌に使われている、などがわかる。

表3 「深い」の語義分類

意味	時代					平安					鎌倉				
	地の文	歌	会話	その他	計	地の文	歌	会話	その他	計	地の文	歌	会話	その他	計
(1)空間的距離	7	4	4	0	15	24	3	3	0	30					
(2)感情・趣き	28	5	23	1	57	42	3	7	1	53					
(3)関わり方	7	0	7	0	14	8	1	4	0	13					
(4)色・香	3	2	1	0	6	0	1	0	0	1					
(5)時間経過	1	1	2	0	4	2	1	0	0	3					
Xその他	3	0	1	0	4	0	0	0	0	0					
計	49	12	38	1	100	76	9	14	1	100					

表4 「憂い」の語義分類

意味	時代					平安					鎌倉				
	地の文	歌	会話	その他	計	地の文	歌	会話	その他	計	地の文	歌	会話	その他	計
(一) (1)煩わしい	1	4	0	0	5	0	2	0	0	2					
(一) (2)つらい	12	54	12	0	78	0	87	0	0	87					
(一) (3)不本意・みじめ	0	2	0	0	2	0	3	0	0	3					
(一) (4)無情	0	0	0	0	0	0	4	0	0	4					
(二) (1)いやだ(補助的)	0	1	0	0	1	0	3	0	0	3					
(二) (2)つらい(補助的)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1					
Xその他	5	7	2	0	14	0	0	0	0	0					
計	18	68	14	0	100	0	100	0	0	100					

表5 「恥ずかしい」の語義分類

意味	時代					平安					鎌倉				
	地の文	歌	会話	その他	計	地の文	歌	会話	その他	計	地の文	歌	会話	その他	計
(1)決まりが悪い	16	0	4	0	20	21	7	0	0	28					
(2)気詰まり	43	0	10	0	53	9	6	0	0	15					
(3)気おくれ	22	0	4	0	26	6	0	0	0	6					
Xその他	0	1	0	0	1	1	0	0	0	1					
計	81	1	18	0	100	37	13	0	0	50					

表6 「高い」の語義分類

意味	時代					平安					鎌倉				
	地の文	歌	会話	その他	計	地の文	歌	会話	その他	計	地の文	歌	会話	その他	計
(一) (1)上の方にある	13	5	3	0	21	21	1	4	0	26					
(一) (2)盛り上がる・積もる	10	11	3	1	25	14	3	2	0	19					
(一) (3)丈が長い	9	2	0	0	11	16	0	1	0	17					
(一) (4)外に突き出る	1	0	0	0	1	1	0	0	0	1					
(二) (1)声・音が大きい	6	2	2	0	10	13	0	0	0	13					
(二) (2)高音	1	0	1	0	2	0	0	0	0	0					
(二) (3)知れ渡る	2	2	0	0	4	3	0	1	0	4					
(三) (1)身分・地位	12	1	8	1	22	7	0	3	0	10					
(三) (2)容姿・品位	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1					
(四) (1)時間経過	0	1	0	0	1	2	0	3	0	5					
(四) (2)高価	0	0	0	0	0	1	0	3	0	4					
(四) (3)数値・程度	2	0	1	0	3	0	0	0	0	0					
計	56	24	18	2	100	79	4	17	0	100					

表7 「安い」の語義分類

意味	時代					平安					鎌倉				
	地の文	歌	会話	その他	計	地の文	歌	会話	その他	計	地の文	歌	会話	その他	計
(1)安心・平穩	51	5	36	1	93	22	3	23	0	48					
(2)容易	0	0	0	0	0	4	0	26	0	30					
(3)自由・気楽	1	0	1	0	2	0	0	0	0	0					
Xその他	3	0	2	0	5	1	0	1	0	2					
計	55	5	39	1	100	27	3	50	0	80					

表8 「難しい」の語義分類

意味	時代					平安					鎌倉				
	地の文	歌	会話	その他	計	地の文	歌	会話	その他	計	地の文	歌	会話	その他	計
(1)難しい	37	16	27	3	83	24	5	26	0	55					
(2)まれ	6	1	10	0	17	5	0	1	0	6					
Xその他	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1					
計	43	17	37	3	100	30	5	27	0	62					

表9 「痛い」の語義分類

意味	時代					平安					鎌倉				
	地の文	歌	会話	その他	計	地の文	歌	会話	その他	計	地の文	歌	会話	その他	計
(一) (1)肉体的苦痛	7	0	8	0	15	12	1	15	0	28					
(一) (2)精神的苦痛	20	0	20	0	40	0	0	2	0	2					
(一) (3)基だしい(連用形多)	1	7	0	2	10	0	2	0	0	2					
(一) (4)優れている	9	0	2	0	11	0	0	0	0	0					
計	37	7	30	2	76	12	3	17	0	32					

表10 「悲しい」の語義分類

意味	時代					平安					鎌倉				
	地の文	歌	会話	その他	計	地の文	歌	会話	その他	計	地の文	歌	会話	その他	計
(1)嘆かわしい	39	34	16	0	89	45	28	10	0	83					
(2)愛おしい	3	0	1	0	4	2	0	1	0	3					
(3)興味深い	0	0	0	0	0	11	0	1	0	12					
(4)見事(連用形多)	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1					
Xその他	3	1	3	0	7	0	0	1	0	1					
計	45	35	20	0	100	59	28	13	0	100					

表11 「良い」の語義分類

意味	時代					平安					鎌倉				
	地の文	歌	会話	その他	計	地の文	歌	会話	その他	計	地の文	歌	会話	その他	計
(一) 正当・善	8	0	15	0	23	0	0	3	0	3					
(二) (1)優れる	5	0	2	0	7	47	1	37	0	85					
(二) (2)美しい	8	0	3	0	11	4	0	0	0	4					
(二) (4)健康的	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
(二) (5)聡明	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0					
(二) (6)有効	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0					
(二) (7)高貴	6	0	0	0	6	1	0	0	0	1					
(二) (9)上手	2	0	1	0	3	1	0	1	0	2					
(二) (10)快適・楽しい	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
(二) (13)仲間むつまじい	2	0	1	0	3	2	0	0	0	2					
(三) (1)めでたい	2	0	2	0	4	1	0	1	0	2					
(三) (2)幸運	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0					
(四) (1)適当・相応	15	0	18	0	33	0	0	1	0	1					
(四) (2)好都合	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0					
(五) (1)許可できる	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0					
(五) (3)賛成である	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0					
(七) (1)たやすい(補助的)	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0					
Xその他	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0					
計	50	0	50	0	100	56	1	43	0	100					

表12 「悪い」の語義分類

意味	時代					平安					鎌倉				
	地の文	歌	会話	その他	計	地の文	歌	会話	その他	計	地の文	歌	会話	その他	計
(1)邪悪・不正	6	2	15	0	23	22	1	20	0	43					
(2)けしからぬ	8	0	12	0	20	5	0	14	0	19					
(3)縁起が悪い	1	0	3	0	4	1	0	4	0	5					
(4)機嫌が悪い	11	0	16	1	28	7	0	2	0	9					
(5)荒れ模様	1	0	0	0	1	1	0	0	0	1					
(6)醜悪	1	0	0	0	1	4	0	0	0	4					
(7)貧しい・卑しい	2	0	1	0	3	0	0	0	0	0					
(8)下手	6	0	6	0	12	4	0	5	0	9					
(9)粗末	5	0	2	0	7	8	0	1	0	9					
Xその他	1	0	0	0	1	1	0	0	0	1					

8. 結果2・活用形分類の時代間比較

次に、活用形分類の比較結果を表13～22に示す。

これらの表から、「深い」「憂い」「高い」「難い」「悲しい」「良い」については時代間の差はほとんどなく、「恥ずかしい」が平安時代は語幹が約1/4を占めているのに対し、鎌倉時代ではその比率が減り、連用形、終止形の比率が増えること、「安い」が平安時代には未然形が85%であったのに対し、鎌倉時代には40%になり、連用形と連体形の比率が増えていることなどがわかる。

表13「深い」の活用形分類

活用形	平安	鎌倉
語幹	5	2
未然形	3	1
連用形	40	55
終止形	2	4
連体形	48	38
已然形	2	0
合計	100	100

表14「憂い」の活用形分類

活用形	平安	鎌倉
語幹	1	1
未然形	2	0
連用形	9	6
終止形	10	7
連体形	75	86
已然形	3	0
合計	100	100

表15「恥ずかしい」の活用形分類

活用形	平安	鎌倉
語幹	24	5
未然形	0	3
連用形	35	25
終止形	16	13
連体形	13	3
已然形	12	1
合計	100	50

表16「高い」の活用形分類

活用形	平安	鎌倉
語幹	12	8
未然形	1	1
連用形	45	60
終止形	3	4
連体形	35	24
已然形	4	3
合計	100	100

表17「安い」の活用形分類

活用形	平安	鎌倉
語幹	8	0
未然形	85	32
連用形	2	20
終止形	1	1
連体形	3	26
已然形	1	1
合計	100	80

表18「難い」の活用形分類

活用形	平安	鎌倉
語幹	5	0
未然形	8	8
連用形	29	14
終止形	16	18
連体形	40	20
已然形	2	2
合計	100	62

表19「痛い」の活用形分類

活用形	平安	鎌倉
語幹	13	8
未然形	1	0
連用形	30	12
終止形	9	0
連体形	20	11
已然形	3	1
合計	76	32

表20「悲しい」の活用形分類

活用形	平安	鎌倉
語幹	8	11
未然形	2	3
連用形	39	27
終止形	5	10
連体形	43	43
已然形	3	6
合計	100	100

表21「良い」の活用形分類

活用形	平安	鎌倉
語幹	1	1
未然形	11	9
連用形	18	16
終止形	12	13
連体形	55	58
已然形	3	3
合計	100	100

表22「悪い」の活用形分類

活用形	平安	鎌倉
語幹	7	4
未然形	3	3
連用形	42	37
終止形	16	8
連体形	25	46
已然形	7	2
命令形	0	0
合計	100	100

この「安い」の変化の要因については、次の用法分類の結果と併せて考察したい。

9. 結果3・用法分類時代間比較

次に、用法分類の比較結果(5語のみ)を表23～27に示す。

これらの表からは、「深い」「憂い」「高い」については時代間の差はほとんどなく、「恥ずかしい」では、終止形終止法と連用修飾(副詞法)の比率が鎌倉時代に増えること、「安い」では、平安時代ではほとんどが助動詞接続であったのに対し、鎌倉時代になると、連体用法と連用修飾(副詞法)が増えることが見てとれる。

表23「深い」の用法分類

用法	平安	鎌倉
A-a.連体用法	44	38
A-d.準体用法	3	0
A-e.助動詞接続	1	0
B-a.終止形終止法	2	4
C-a.連用修飾(副詞法)	30	38
C-b.連用形中止法	2	3
C-c.助動詞接続	3	10
C-d.助詞接続	5	4
D-a.助動詞接続	3	1
E-b.助詞接続	2	0
F-e.名詞生成	5	2
合計	100	100

表24「憂い」の用法分類

用法	平安	鎌倉
A-a.連体用法	61	69
A-b.連体形終止法	1	0
A-c.終止法(係り結び)	1	3
A-d.準体用法	10	10
A-e.助動詞接続	1	1
A-f.助詞接続	1	3
B-a.終止形終止法	10	7
C-a.連用修飾(副詞法)	4	0
C-c.助動詞接続	4	6
C-d.助詞接続	1	0
D-a.助動詞接続	2	0
E-b.助詞接続	3	0
F-c.感動	1	1
合計	100	100

表 25 「恥ずかしい」の用法分類

用法	平安	鎌倉
A-a.連体用法	8	2
A-d.準体用法	2	0
A-e.助動詞接続	3	0
A-f.助動詞接続	0	1
B-a.終止形終止法	16	13
C-a.連用修飾(副詞法)	18	16
C-b.連用形中止法	3	0
C-c.助動詞接続	1	4
C-d.助動詞接続	13	5
D-a.助動詞接続	0	3
E-a.終止法(係り結び)	3	1
E-b.助動詞接続	9	0
F-c.感動	1	0
F-e.名詞生成	1	1
F-g.形容動詞生成	20	3
F-h.助動詞接続	1	1
F-x.その他	1	0
合計	100	50

表 26 「高い」の用法分類

用法	平安	鎌倉
A-a.連体用法	27	22
A-d.準体用法	6	2
A-e.助動詞接続	1	0
A-f.助動詞接続	1	0
B-a.終止形終止法	3	4
C-a.連用修飾(副詞法)	39	58
C-b.連用形中止法	2	0
C-c.助動詞接続	0	1
C-d.助動詞接続	4	1
D-a.助動詞接続	1	1
E-b.助動詞接続	4	3
F-a.名詞修飾	1	3
F-d.名詞	11	5
合計	100	100

表 27 「安い」の用法分類

用法	平安	鎌倉
A-a.連体用法	3	25
A-e.助動詞接続	0	1
B-a.終止形終止法	1	1
C-a.連用修飾(副詞法)	1	15
C-c.助動詞接続	0	2
C-d.助動詞接続	1	3
D-a.助動詞接続	83	32
D-b.助動詞接続	2	0
E-a.終止法(係り結び)	1	0
E-b.助動詞接続	0	1
F-d.名詞	1	0
F-g.形容動詞生成	7	0
合計	100	80

ちなみに、「安い」の平安時代での助動詞接続 83 例はすべて未然形で打消の助動詞「ず」に接続

し、「安からず」の形で用いられており、結果 2 での「安い」の活用形の偏りの要因となっている。同様に、「安い」の鎌倉時代の連体用法の 25 例中 18 例は「安き事」の形で用いられている。

このように、特定の語との結びつきが活用形や用法の偏りにつながることもあり、前年の報告でも述べたように、語義と用法を組み合わせた場合に傾向が見られる場合もある。

9. 課題と今後の予定

今回の調査までで、形容詞 10 語の平安時代と鎌倉時代の用例に対して語義の分類を行ったが、全体の構想からはまだまだ十分ではなく、今後は、自然言語処理による効率化も視野に入れ、さらに対象となる語や時代範囲を増やし、通時的な語義の変遷、作品やジャンルによる語義の分布の違いなどの分析に応用していきたい。

優先順位としては対象の用例を拡大し語義と用法を特定していくことを第一位とし、ある程度データが揃った時点でデータベースのプロトタイプ的なものを作成したいと考えている。

謝辞

本研究は JSPS 科研費 JP21K00279, 20K13059 の助成を受けたものである。

参考文献

- [1] 村田菜穂子:形容詞・形容動詞の語彙論的研究, 和泉書院(2005).
- [2] 村田菜穂子, 前川武:語構成から見た形容詞—中古から中世への変遷—,国語語彙史の研究,Vol.3 8,pp.139-162,和泉書院(2019).
- [3] 国立国語研究所(2021) 『日本語歴史コーパス』バージョン 2021.3 <https://clrd.ninjal.ac.jp/chj/>
- [4] 山崎誠, 村田菜穂子, 前川武, 村山実和子:形容詞の通時的語義・用法データベースの作成, じんもんこん 2021 論文集,pp.170-175, 情報処理学会(2021).
- [5] 小木曾智信:「国立国語研究所の言語資源とオープンデータ・オープンサイエンス 講演要旨」, 第 1 回 SPARC Japan セミナー2019「人文社会系分野におけるオープンサイエンス ～実践に向けて～」, 国立情報学研究所(2019). https://www.nii.ac.jp/sparc/event/2019/pdf/20191024_doc3.pdf(参照 2022-08-31)
- [6] 国立国語研究所 <https://chunagon.ninjal.ac.jp/> (バージョン 2.7.0, 検索日 2022 年 8 月 31 日)
- [7] 小学館:デジタル大辞泉, ジャパンナレッジ <https://japanknowledge.com/> にて利用.
- [8] 小田勝:古典文法総覧, 和泉書院(2015)
- [9] 土岐留美江:平安和文会話文における連体法、準体法、終止法の比較分析,愛知教育大学研究報告. 人文・社会科学編,66,pp.21-29(2017).